

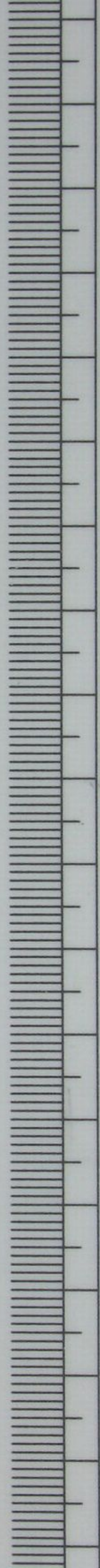


辨
諧
通
言
完

中村俊定文庫

文庫 18

741



75

70

65

通言序

次高うんとすきは言禁は

艶は我もははははははは

うははははははははははは

はははははははははははは



もふはくう年若人ハう如し
もろくろ年思ふもあし
とくろの都のうく懸眠もの
秘宝はカひらうのまき
くく大穴深のからものは

八倍を危少舞は是をも
おの性秘とナク懸河の信
男のまきる身又まきる
判官後も辨をまきる
象昏せんまきるは

五瓶よりち懐きし是亦俳偈

清梵音記

文化三丙寅歳序尔草如前著ハ

江源翁大席



五瓶

二瓶に由るる力と市朝に流して
嘉也の母仙ありふ志やと格は
或本々狂言綺語ハ辭匠あり
幼名懲悪の教戒を施し又
あつ何れ清梵を以て授けしを
とをよと奉りしひらの自在の
やとらりて更らるる修り修り
身ありて今日も州郡を教ふ

史より破公にたりて平外は傍の案に
 一書ありて家藏の凡の形く文字紙
 ころふ未先人書とかなきれ乃
 佳書なりと未了し僅り只紙ありて
 黄緒知婦しとも書きつとも少もか
 或臆中しれ白衣の書を更つる方かれ
 只感ふ事ありて吾を悲し嘲をゆるめ
 求嘉初より改静



自叙

今也俳諧者流の巨匠たる者獨り色を聞きたる
 色なり一買色ハ何せし子娼家の光景をいふ
 也然まきても其つ風形好士事實名稱を
 詳よきは故子句作毎千齣齣杜撰す所
 かは捧腹しと笑ふ魚子車中けり余
 常ふ此をを好て世活乃隙をく暇をも
 おう以實子生来乃一癖といふ也

今此編集ハ燒二の一筆也四才の諸君
 子意を留て懸覽以終り眼首の五里
 而務勿暗く終り懸然の雅境子入函玄
 晒落乃風韻ハ其意の趣くこと終り出
 色——然後子彼捧返す者誰哉
 嗚呼

並木五瓶誌



文化丁卯陔月

凡例

一 賣色の詞ををわゆる三藝の廓および大坂名の月京
 祇堂所ハその辺りのありさぬをのする洛東志ハを糸
 河の内地務糸所特勞所の稻倉糸所花街内の
 子のわ種どの日を紋日とする也ををのする
 一 季考の中小ツキ平をりん望生吉多ハ江吉
 糸考系ハ洛西大坂新所ハ浪中同名の内ハ浪南糸

後醍醐天皇(洛東)五條河原をのりて是をまじり

三枚の廓治を治の内洛東後醍醐天皇六河原をのりて

時折々の流りて變化するもあはれ當時流云時花河

の影のせりて唯古よりいふべき河を集りて

赤小徳坐の花樹地名を志すは是も愛文の河

よりし用ゆるるあはれあまを追かまふおきる

ハ後より補ひ後小編るるゆを志すのこ

誹諧通言

人倫

並木舎五瓶著

都嶋原(洛西)をま

昔の白柏子とらるるゆり六條三筋河原

兼るゆりあまど名付又始皇帝の極のゆり松の位と

よづり松ありふありあはれと勅女枝持女といふ和名枝

むりハは價た五かあり一也は家日表とて神と

のゆりてを一も家よりて林の位とよあはれ

ち支天神ハ業を(出まはせ)麻恋(まこい)をまて神とらるるゆり

駕の業を(ま)あはれ(の名あり)新(あらた)を世と小塚中察

をとせしより麻恋といふ別名を麻の位といふ新(あらた)を世と小塚中察

夫小表して新艘と云ハ新き舟小舟なり也あり
 於て新艘おし一揚座をて婚禮の式あり
 突出 新艘と云
 おれハ格式 奉陪唱婦 夫と云神自身より法を
 遠ふやあり 引舟 夫と云付左使ハ右小表
 婿唱婦と 小向 妻唱婦なり 引舟 夫と云付左使ハ右小表
 翁帯なり 引舟 夫と云付左使ハ右小表
 それを也と云魚引舟の名 虎 夫内女の重宝際より髪きり紙
 あり勅ハせど内院なり 虎 夫内女の重宝際より髪きり紙
 かりハ肉より夫と云神婿唱婦なり 虎 夫内女の重宝際より髪きり紙
 夫ハの翁量もかありなり 虎 夫内女の重宝際より髪きり紙
 を左側ハ外廓と云ハの多系よりハき手 花車 揚座の妻女を
 といハるハ左使の乳母 花車 揚座の妻女を
 風流を及ハ花やハ小盃の也り 忘 八座より婿家又親老と
 ちハ管も由ハ花ぐるはと云あり 忘 八座より婿家又親老と

婦及のりを 卸 廓中寄籠の寄場
 新りあり 卸 廓中寄籠の寄場
 夫のハ廓の 同 淨瑠璃唱妓 夫と云宮園前を
 法度なり 同 淨瑠璃唱妓 夫と云宮園前を
 おまよハ廓 奉陪 夫と云付左使ハ右小表
 ハ右代ハと云ある 奉陪 夫と云付左使ハ右小表
 男廓ハ限り夫と云 女使 婿婦より客人の方
 客のらちよりハ名あり 女使 婿婦より客人の方
 屋座右車 出口より貸備笠の筆を
 あり今ハ形斗り張りあり
 同 祇園町 洛東 素人 夫と云ハ素人と云流ハ花やハ
 あり 素人 夫と云ハ素人と云流ハ花やハ
 あり 素人 夫と云ハ素人と云流ハ花やハ

年増の **中結** あねいあさ **若結** 若くづめ **瀬云子** あはれいあさ

色あし 或ふありけ里の **理花云子** とげいこ **甚盛人** ごせん **形茶子** かたち

近年げいのよのよのと美草の **基盛人** ごせん **形茶子** かたち

山猫 まにまに **仲居** ちゅうぎ **健児** けんじ **自露** じろ

起番 おきばん **見世貞** みせまこと **親出母** おやでわらう

公人 こうじん **子飼** こかい **月入** つきいり

見世貞 みせまこと **親出母** おやでわらう

見世貞 みせまこと **親出母** おやでわらう

見世貞 みせまこと **親出母** おやでわらう

見世貞 みせまこと **親出母** おやでわらう

見世貞 みせまこと **親出母** おやでわらう

見世貞 みせまこと **親出母** おやでわらう

見世貞 みせまこと **親出母** おやでわらう

見世貞 みせまこと **親出母** おやでわらう

見世貞 みせまこと **親出母** おやでわらう

見世貞 みせまこと **親出母** おやでわらう

見世貞 みせまこと **親出母** おやでわらう

おかしきもの
浪花新町

浪花新町 (浪中) 左史

廓中女帝の上にお立ちまはし流藝
を考ふるに客美風俗習を

撰る職おまをたり扱ふき人
天神 法より流藝と同格を史
と位のは息女とてても暇す

出せば位も上中下
小天神 中の見世天神 観女帝為帝
之辰所敷を利

小日柄傘 扇かき
麻子位 廓中にて初の有り
あまふハ者柄を望

女帝 横中おま
新造 吉系流儀同一格あり
彼角を夕暮より

引舟 彼の角を夕暮より
連始る今ふとを
他と違ひは
の先いも指さる

揚登より後び返る
葉以女郎 享保年中より流云子始り
女ハラウシクやあふん

流云子 放ら系
左史 尚不流の内日格少
の流を信を

秀吉公のお伽より
伸居 廓中にて始り
の客入ハ左史をかりて

扱入ハ志ハへむ
艶男 色男なり
扱入ハ志ハへむ
扱入ハ志ハへむ

同嶋之内 (浪南) 伯人
伯人 伯人といふ
葉立女 葉立女

日く伯人
葉立女 葉立女
女帝のり

葉立女 葉立女
葉立女 葉立女

葉立女 葉立女
葉立女 葉立女

娘と身公人ふとがら **左扱**のりまのあり **仲居** 菊新の仲居ハ揚子
二品ありなり **雁仲居** 別小世帯を揚く **早男** 祇園所と **飛**

肺 用とあり **空扱** 女前を穿らす色紙を **お山** の熱
名女をお山とよぶ **都念** の

と向く **釋** 法受ん後何小くは扱ける **大通**
者をりあり **不釋** 〇 **控書** 又 **月** 何月一りもあふ

又 **不釋** 〇 **控書** 又 **月** 何月一りもあふ
あり **外** あり

あり **外** あり

神釋

春 **浪中** **浪南** **受深系** 正月元日天王菩薩曼坂へ **十日恵比須**

正月九日十日大坂中の控女の **洛西** **幸** 又 **月** 何月一りもあふ

呪智神 正月十日十日の夜廓中の男女残らむ **大**

洛東 **御忌** 正月十七日より廿六日まで **お菊** **稻** 正月十一日

の石壇の **江吉** **恵比須** 正月十八日 **大神** **樂**

下小あり

二月卯より入込廓中すしむま 初午くろまゆい ○九条助稻荷ありなまき 新所の稻あいのまき
板中稻荷あり 江戸町あり 昭石稻荷あり 伏見丁あり 老敬稻荷あり 京西

吉住稻荷あり 廓外五十男あり 日五丁所あり 憾あり 吉住稻荷あり

洛西 菜種供二月廿六日 浪南 汝于三月三日 雜糸あり

洛西 壬生三月廿六日 大紋日徳人あり 江吉 三社糸二月十八日 佛生會四月八日

東寺法三月廿一日 江吉 三社糸二月十八日 佛生會四月八日

洛西 葵糸四月酉の日 佛生會四月八日

洛東 灌佛四月八日 洛西 住吉三月十九日

浪南 沂田二月廿八日 住吉田極三月廿六日

浪南 沂田二月廿八日 住吉田極三月廿六日

浪南 沂田二月廿八日 住吉田極三月廿六日

江吉 富士指三月廿六日 住吉田極三月廿六日

洛東 祇園三月廿六日 住吉田極三月廿六日

洛東 祇園三月廿六日 住吉田極三月廿六日

十二月十七日十八日浅草大吊正月のい庭火大晦日の夜より秋女帝の座を焚く

華常院 年中の座を焚く **通子神** 女帝の座を焚く

乃此神のい真保正保の以角丁並及またら抱の依ま

係といひ女帝名簿のありし **自生尼** 享保の以の

廓を出く世を祝し **浪中** **茶噺法喜** 以新丁

通り能彩有といふ女帝座なりし **妙林廓**

新者ふ録か **祝音市象** 西口 **浪南** **お**

天五ころ一 **浪南** **お**

のさの楊枝 以宮あり **自安寺妙見** **同宿為**

女帝座なりし **浪東** **主夜神** 以新丁

乃お日ち **浪南** **又大方** 以新丁

檀ゆ社あり **目病地藏** **同宿為**

のい子女帝座 **妙見** **浪南** **又大方**

妙見 **浪南** **又大方** 以新丁

きる **江吉** **念佛丸** 以新丁

突ま **浪南** **又大方** 以新丁

傾城塚

津の國津傍田の中小なるのやうに深空上人小僧
城の人ゆ依依く交戒を教ひ上人隣を授けた

まゝハミ夜み人の控女系なる津傍川へ所を流れ空へく
里人死骸をたよげ葬りて空をたよるを傾城塚と名号

て今小あり三所小あり
浪中 夕暮塚 寛文年中せん
るかれど序小まふ志らん

人もあつゝ扇やたきり塚ありた故↑ち所
津玉寺あり延宝六年午正月六日落死 井筒も去

結 依傍高所丹波屋地へ井筒勸の内小所あり一ある俗
名法名をある一室庭吊ひしとあると時代詳あり

三勝墓 乃此塚子日少あり元孫の以孫子孫法屋三孫
を知ら傳高をさそとりのとん中せしを

岩井津中食言葬故芝居してね去うして大入大無名
也右の石碑を芝居所中まは長施まて建て今小也 江吉 高

尾墓 三浦屋二代の全墓人の能あつゝる女系なり墓た止るら
女系のた誓小なり小紅糸を柱しもそ名小ありをのあり

宋女塚 寛文の以博町屋全屋の女系名副の危客子細めて
厚重屋の梧子先少く控身するそ夜宋女まら成

あび出浅茅系鏡の池いで身を殺せしく成
の者死骸を葬り塚を鏡の池の邊り小築く 儒教小

静 是れ意文の以江戸丁玉屋の抱少く毎日髪を洗ひ水髪
して勤せし一左右の屋名あり後小大徳殿 女服の上刺

誰哉 暇暦の以江戸丁玉屋西田屋抱乃
夜月四さ小扱やより

祓後の利心のため時より廓中小形燈を出さるのそまら

是を別注哉形焼とまん万字玉菊たまたまきく正徳年中角所中万字や
名号今も御正にあり

中の男女玉菊をそひむ入るく皆小可愛がらむとて女帝たれと
月小むく重き風の小死と病まゆ多合せ惜しや秋の始ふ十萬
億土へ揚屋入りせしあそをうかろき入皆懐しそ加れしとせめて
追善の為祥月あはれは七月より伴の町へ燈籠を出一吊小

是り例小改王毎年燈籠を出し諸客入込と廓の
繁る是も玉菊が余光ありと今も御正に表たり

是のいりへ存せしが秘蔵せし猫を養へし和刻を角々表り
け猫ありとあり揚屋町のきり小塚ありとて所不詳

八の橋やつせ元禄の以前所中万字をの抱せて下中の依のひたる
と云客八の橋を拒むりありと中のできや依は

方して教書まじり記さしあんが心中あんが男女たがひ実
治作ありと此河橋といふ

をそすといふ

衣類

浴西 正月元日衣類表福 **同日着** 浴衣名刺のあり

浪中 女帝の三日着 自身小掛へ着まあり **扱具高** 昔ハ

付の毛替あおどあまより作山也今ハ後付の **練帽子** 女帝他

つらら名れを付くやくまの揚屋へ運ぶ **新町綿** 是も新町化

時練帽子の形りを練して仕立させ **吾妻絆** 毎年の事とあり

是を考へ今ハ浪中浴外の女帝をみる **揚衣表** 女帝伯人表

おろし類際へちり **浪南** 只小派手を

そ 清忌小袖 正月の忌の内より 衣更 卯月より 菖蒲帷

子 五月六日の 涼袴 六月すこの内見せぬのけい子 汗手

拭 係呂端端少く 白伐衣 靴端洒少く 三角提ち

子女帯舞の中居のよく 古金襴竹取所 袂端綿掛の 靛兒

世揃 是も尺せし 五合せ大袴 袴の 類かむり 紫ちり

宿裏 孫巻 伯人女帯 度 袴の 包 かの孫子 袂衣 袴を

の衣 袴衣を包む 是を道し 男 袴 袴 袴入の と 袴 袴

代衆 女帯 孫巻 子 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

化粧 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

二日者 三日者 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

帷子 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

八月 白巻 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

りの風情人皆感歎也一が例とありくふちこそで
ハ新おハ皆白を垢よそ今お伴のくか見 **九日小袖** 九月暮白か又

仕着 三月年の考ふるる三付の新造先お揃ふ中り熟くて年
申の揃入ハそのおのんよりすかのうやう中他取と遠く試

廓の縁或は無名留の女比 **夜着** ○三の痛遠 又云の痛遠
是も女帯の

全並少く餅たを別ありきよりすれハ二階中へ蕎麦を籠り
家より係りくくの揃或あり是を妻初とりきとあ程ふりやう

実出ーおハ肉院
より揃てやうのしる

器賊

洛西 **差鉾傘** 左支扱登入乃申の物さしうける **江吉** **長**
親方定波付の傘をて作おハ

扱傘 吉原ハ女帯の紋 **浪中** **日扱傘** 格式洛系 **江吉** **駒**
付と方とは例

下駄 中右角丁菱や **洛西** **右支下駄** 黒ねり二の歯さくし
菱花七下り

浪中 **吾妻下駄** 寛文年中是も **箱扱灯** 扱登より扱登
あつまはし

を迎ふ例時扱ありむびてしちんは揃をそあ年 **扱登仍燈** 九
扱ては例なりしは糸糸ち扱とも同例あり

町扱登中と屋小灯はあふ不 **種々扱登** 所波産新扱町巨下や
扱の形ありあふあり

花の井釣籠 九軒町扱登行吉屋をばに方おり是ハりあし
解因法所の紐籠也一蓋あり紐因等のおる

是伝と **車紙** 皆代州系あぞ画考包 **金張の圍** 解
扱あり

キ

おまゝ神夜のはし扇子はきりす
昔のしゆり意を解をばりしやうり
江吉 大新花燈 女帝の後付
おぼえどいひ

町へある時帝座の門口に並く是れ方小
おき流手花やうあやうのしんをさ
大扇子板 月松の月仲の
町へある小虎ふ

持せたり是ハ中右流を登對するといふ女帝
持や路今まの帝の廓の流手ふれるあり
琴 ○ 鼓 ○

二味線 ○ 尺八 ○ 鼓左鼓
はあはく何とせも
竹箒 ○

○ 長持 ○ 用管笥 ○ 衣杉 ○ 香具 ○ 煙草盆
たむしあひん

是ハ女帝の帝座の侍たり立流ありを客より送是ハ其の役
付又自身不す是ハ自前の後付給合具も立流ふ是外の廓
の控女ふあきとり帝座の金
比留若生 友の改持方のふとん
は京所り流手なをまたり

中をがらぬへむしりしゆらういびろしりあ人
とらりあしゆをあらぬかうしりしゆらういびろしりあ人
枕 くらりあり

扇風 ○ 火絛 ○ 帆立貝
名詞の客人あり
床の間掛

物 ○ 着衣
はあはく花菱少くをまたり
篋 几中 遠来の探

曉人筆
元吉京の所より利しりしゆらういびろしりあ人
暁 駕 くらりあり

猪牙船
入山各舟も元祿の改持のあはしり
田面 くらりあり

誰哉行燈
あはしりしゆらういびろしりあ人
田面 くらりあり

鬼屋
神の所をあらわす
田の面をあらわす

洛東 線香箱 糸掛草紙治本洛の内巻く人登子花

浪南 二味線香箱 二味線香の味あるは思案香相の

包く世一男草紙(括) 換信袋 是も初めくど或ハ時代きれる

と燈之世接を 提灯 小東提灯の形みどく一風 紗羅

提灯 之類色町ハ勿論西方 浪南 式額眉刷毛 けせいの

襷新揚枝 新所揚枝 吉系揚枝 新所揚枝 〇〇

魚揚枝 女屏のきふみぶきやい

辰所地名

洛西 越名洛系 〇上の町 〇中の町 〇下の町 〇左

走町 〇揚屋町 〇中堂町 〇揚屋 十軒むり

角を徳右 〇茶屋 〇忘公屋 〇小向 中堂町の

名代 〇まら石 〇衣紋襦 〇丹波口 〇朱雀堂 〇西

口 〇中平通 〇茶塚山 藤中任吉太郎の 遊女日記

不 〇出石の遠入の 洛東 祇園町 〇切通 〇辻子 於志ん

見番 男女の儀者 者市場 中の丁中 又近の柳

あの人様 松石 二宮様より廓 編笠 茶屋 廓外 字 あり

キの字 屋 廓中 科 煙仕 ひ 五見勢 九 夜

具勢 是より 竹離 見世の柳子 妓府 三 部

表二階 二階 夜浦 日二 部

屋 室 也 名代 遣手 夜

苦樂 女 部

浪中 越名新町 東口大門 新草町 阿波産

後町 通の町 徳波橋町 藤糸町

新糸橋町 新堀町 九軒町 又九軒 西

大門 是をゆれ 乃者橋町 通筋より

来りし 女中 杉子掛 新糸橋町 遠入 揚屋

花西番 茶屋 中町 小茶屋 兼 忘八屋

女中屋の 蕨子屋 子のある 柳 福荷 足勢

馬うまうまろろくく 是も素浪持盛志の **浪中** まらきぶ **妙離節** る浪年

きとりの女帝は声あててしる身い **半** はん **文節** ぶんぶつ はたより

由はさきの名物の口くう南せわ **浪南** なみの **能志** のし **文節** ぶんぶつ **園八節** おんはちぶつ 京路の **西行節** さいぎょうぶつ

是も事起より **拳** けん 何玉を **は** は **拳** けん おりの **飯** いひ **拳** けん

流りあやより **馬舟** うまふね **拳** けん 是ハ南せわちち獄門の元を南流 **時** とき **舟** ふね

因しる **花** はな **吹** ふき 年と **江吉** えきち **つぎ** つぎ **節** ぶつ 好層の **古** ふる **堤** つち **節** ぶつ

是も素文の **河** か **糸** いと **節** ぶつ 中たは平の名を **虎** こ **拳** けん 近て向とありぬ

はらと知 **茶** ちや **節** ぶつ 有後芝居標歌舞 **見** み **世** よ **禮** れい **節** ぶつ 家

とみとあり **花** はな **吹** ふき あやうし **花** はな **吹** ふき 遠いあやうし **外** がい **廓** くわく は **見** み **世** よ **禮** れい **節** ぶつ 人の事を

花やうきと **書** しよ **節** ぶつ あよ

洛西 らくせい **祝** いわい **儀** ぎ **節** ぶつ 正月元日 **子** こ **州** しゅう **結** むす **節** ぶつ 男の名を

ひが **日** ひ **物** もの **怪** かい 正月の物 **子** こ **州** しゅう **結** むす **節** ぶつ 男の名を

別え日より **子** こ **州** しゅう **結** むす **節** ぶつ 男の名を

日物 **子** こ **州** しゅう **結** むす **節** ぶつ 男の名を

名も **子** こ **州** しゅう **結** むす **節** ぶつ 男の名を

ひと **子** こ **州** しゅう **結** むす **節** ぶつ 男の名を

紀元文

二世の御まひの御事ありの文章
血を流しをかりに志古代の事

退状

念ひおせし
中の縁を切

あまふふやう

浪中夕芳紙

扇屋ゆきざりかき紙揚やあま
客人中めば扇やふえよせ足せる

掛あわして
兼入やう

大更手鑑
甲子のおを清苗の内藤へ通ひ出立
の御事揚やう廓中のちをよ

右の御事やうを自筆あませし紙ある
本ふきそ彼ちまの錢別としてまきまのちをふしつるあり

洛東

花山帳

女帝の書きし花の教
筆を記す筆屋の起

の名を贈形ハツづく
ふてらおあしつるあり

浪南

花山帳
筆を記す筆屋の起

通入

是の陀仙を二の折り先きの筆屋の名前をま
女帝の書きし花の教をまき紙屋日

判をまきし筆屋の御事ありの御事あり
右遠のなきし花の教の判をまき筆屋の御事あり

足紙

紙屋の御事あり

女帝の書きし花の教をまき紙屋の御事あり
死まふれふりくの志中れし女帝の御事あり
相合傘
是ハ流虫く女帝の書きし花の教をまき紙屋の御事あり
供出おして傍書の筆屋の御事あり



女の名
男の名
那のまきざり
袖造
子附
振袖又ハまき

筆小名刺の色ある神を踏て中におまごら付させむそ若のりき
おひ括しそ中らそ白小筆屋中へ赤刺飯を記る胡麻塩包小
何やの御事
其書
左伝心まき佛の名を記し筆屋の御事あり
卯月八月より七月十六日を毎日毎日

江吉

尾か
三浦屋の全筆初代今二代三代人のよきあり
筆屋の御事ありまより紙屋の御事あり

楊屋足紙

昔楊屋の御事ありし時ふおあまへまき客人の御事あり
筆屋の御事ありまより紙屋の御事あり

の類方一送方切手なり今ついでに附届の客名原の客人外の女席屋
 忘八控ひ申へけりか一は先小多功女席
 の方より名刺の指子をのりし先キの女席へ切手
 而の客を申り客人をのりし切手なり
 同ドてきん偽し元禄の此は戸町二丁目若原屋の真別といふ
 全盛大糸挑灯小太のやくと志る一きんを
 大切小勅禱の字是は室永の以新町山本の徳山実出
 一し一しの時禱か自筆少く妹將山流川乃
 為氷さけてぞいと袖はぬねるときあり
 全糸少くぬりせを忘しくあり
 客帳女席毎日每晚来
 る一席後無見性禱きしなり
 是を客人をんごらなり
 年季證文是は何國まで心色町
 活の時かは徳文を後まなり右の外か後胡の客名刺しのり
 客小は日毎あどとなりとしれるなりしりハ酷し又ハをそ思の客もた

時刻

江吉 送り柏子木

時替より正徳の以まで男達入込と廓の喧
 嘩いふず踏ま返も去る小の曲も連ねては申せぬ
 来の人を柏子木を送りしはより一いけケ吉原に見せ給し以
 送り柏子木を送りしはより一いけケ吉原に見せ給し以
 より七ツまでは控ひたつよりはきとなりしを控見せしりあき也その
 名原の付しては四の時の時か柏子木を打ぶ九の鐘をおき小
 町の柏子木を打ぶして送りしたつの時をりの
 かり依ては廓の八時四分の名あり
 夜足せを出し時のあらせし時酒
 女席屋のあらせし時酒
 吾が居續は廓の遠留のあらせし時酒
 あり居續は廓の遠留のあらせし時酒

三コ

三三

きめ 是れも舞のあまき **皇仕遣** ○ **お仕遣** 一方を **片仕遣** 一方を

浪中 **限の右轂** 以廓の志くせり **揚先** 後日約束のちや **揚前** あけさき

洛東 **約未** 約束のちや **約未** 約束のちや **約未** 約束のちや **約未** 約束のちや

浪南 **中半** 皇仕遣のちや **七心遣** 徳意町の気勢を居る **七心遣** 徳意町の気勢を居る

伯人 **お仕遣** お仕遣のちや **お仕遣** お仕遣のちや **お仕遣** お仕遣のちや **お仕遣** お仕遣のちや

お仕遣 **お仕遣** お仕遣のちや **お仕遣** お仕遣のちや **お仕遣** お仕遣のちや **お仕遣** お仕遣のちや

お仕遣 **お仕遣** お仕遣のちや **お仕遣** お仕遣のちや **お仕遣** お仕遣のちや **お仕遣** お仕遣のちや

舞云子の遠はたり限りおれど話ある客ハ仕遣
足せ仕遣を居るく暇の勢ましくわくわり

言語

洛東 **肩三日** 正月元日二つを肩と云ふく **浪南** **初対面** 客ハ仕遣の

初対面 客ハ仕遣の **一見** 初対面と云ふ **一寸** 初対面と云ふ

間 客ハ仕遣の **扱花** 外ハ仕遣の **立留** 客ハ仕遣の

立留 客ハ仕遣の **生買** 客ハ仕遣の **切合** 客ハ仕遣の

切合 客ハ仕遣の **附込** 客ハ仕遣の **附込** 客ハ仕遣の

カ

をあらまき見立 おやお方の女帝を 半可 やぶを 利風俗 きいふく

あまのれをりか 似馬麻 たまけあ 向人 むくの家の商合

浪中 おをを送り 主 おをを 中大 おをを

呼立 おをを 呼立 おをを

借 お方を 借 お方を

間支 おをを 間支 おをを

掃 おをを 掃 おをを

かま世 廓中の女れ 口舌 くちげり 身揚 みあがり

所傳 おをを 浮氣 うきまき 髪切 かみきり 尻切 しりきり 年明 としあけ 梳 とら

擺 おをを 擺 おをを

年中行事

門松 かどまつ 門松 かどまつ

初午 はつごま 初午 はつごま

洛西 ろくせい 雜市 ざし 雜市 ざし

村伊やま 揚屋町 山屋豆腐 揚屋町 甘露梅 中の所 甘西梅 ある人へらるるあり

洛西 左史 白粉 上の所 油 たか 大支 お粉 水 氷 淡 物

洛東 香煎 紙 屋 小町 紅粉 浪中 美顔香

西口 敷屋 小 巻 粉 糸 浪南 美顔香

西口 産 三 味 線 所 加 成 川

西口 敷屋 小 巻 粉 糸 浪南 美顔香

早 乾 魚 屋

羊羹 家 此外 數 多有 後 編 小 出 也

諸國花街

丸山 肥前 下関 長門 大坂町 飛騨 室津 播磨

神町 筑前 鞆 備後 乳守 泉別 高師 同所

蛭子島 日所 撞木町 城見 中生嶋 同所 柴屋町 江戶

四宮 同所 古市 勢州 青森 津輕 潮来 常別

敦賀 越前 三國 同所 新泻 越後 寺泊 同所

酒田 羽別
走金 志原
木辻 南於
岡崎 三別

彌勒町 駿原
右河 橋を去る漏る後編花ス

是より里古跡の部

江口 振別
神崎 同所
鶉野 播原
鏡岩 江州

浅妻 同所
野上 濃原

並木 舎敷 一存 以 編 里
題 一 多 由 從 諸 通 言 々 呼 ぶ
是 を 具 ぶ に 之 都 如 遊 里 能
在 山 中 今 亦 小 年 中 乃 行 事 追
の 手 子 以 濱 小 男 藤 の 筆 比

命も長き夜は情をたたり
 のき集めし心を張良の胸に
 其のせうとるを語り如し世治良
 相光入左右の一向秘せよ

平日子堂 凡秘跋

星運堂藏板誹書目録

東叡山南下五條天神前
 花屋舊次郎

誹諧鑑

芙蓉山人雪成撰

中本 二冊

此書ハ明和中初編出板せしより當時まては三編あり
 江戸諸流判者高直書板の句を拾ひ一冊なり

誹諧礎

釣月堂一漢撰

小本 二冊

發刊秘考のまに書雜意林
 秋より調と五七六が是と云ふ

誹諧綾錦

菊岡沾原編
 全部三冊

但存の連名所の系流傳傳流の
 傳流の系流を志し

誹諧持扇

李寄使用
 懷中本一冊

以數書世多し又再板羣し之能
 小遊之人懐中て使用と云ふ

誹諧 種卸 増補三國人名牒 高井蘭山先生撰 中本一冊

日本大唐天竺等々の名をとりて人物雅俗をいふも其業を
傳をわくして俳諧附句なりしに端はくを乃便とい

誹諧季引席用集 撰者同上 横本二冊

此書は四季系物名所出の付合生類抄抄等より文字を訂
いははかみして採出し易くしむるを註釈を加へて必見

誹字節用集 近刻 撰者同上 薄葉摺寸珍本

右の書は尚廣益誹諧所引の物成場抄より採りしに成す小位
此席の至宝也備ふ古今類考に於ては活けたまなり

誹諧増續山の井 拾穂軒北村季吟翁遺書 小本 二冊

拾穂翁は源氏物語を好みし人の和書に注して和漢の情儀
とあつて誹諧の季を立の巻に注釈とて後へ一本あり

誹諧増補所名集 槐陽井躬之著 小本二冊

和歌の後取諸國の名所古蹟軍場忠従古又俳諧の事
なるをわくして産物其取之傳へて其鄙説を擧げ俳諧を

誹諧季寄屏風 古来庵存義撰 高井先生校 一冊 近刻

存義老人の工事をりて四季と一板乃屏風とて此書は是を
枕上屏風として心を自然と年中に東の地を俳諧と志るなり

誹諧麓之杖 非宗没古年表
水戸素綾撰
一枚摺

誹諧千里獨步 同撰
蕉門傳書
二冊

古來庵存義句集 圖大撰
四冊

誹諧櫻合廿二歌仙 存義例
獨吟一冊

梅翁宗因發句集 津富撰
一冊

芭蕉翁渡唐像 一枚

蕉翁杏林柳居句選 三大集云
中本一冊

誹諧二冊子 四冊沾山集
發句附合二冊

誹諧自福壽 樓川年賀集
三冊

誹諧四季句帳 江戶点者句集
二冊

椎本才磨發句集 宝馬撰
一冊

芭蕉翁鹿島紀行 真跡
一冊

眠柳居士發句集 門琴撰
二冊

大無發句集 霜後撰
二冊

柿晋問答 其角
去來俳談一冊

雪門判者發句帖 一冊

誹句探六帖 完來撰
初中本二冊

月並 少く州
完來評
一冊

完來發句集 近刻
一冊

月並 五句合
午心評
一冊

雪阿嘉理 雪門一派高点集
点譜小句一冊

繪入句艸帛 同撰
彩色摺
折本
一冊

龜戸 奉納
發句拔萃
律雪庵評
一冊

律雪 社中
運座發句拔萃
初編より
一冊

得器叟高點五萬才初編より四冊

一と五山を社中此儀として又万の成
奥の七海の真とある事後了集

其角附合句續松カルタ其凡撰
両面摺

室晋夜百巡忌れそとて意流
其凡先師附合の表とて撰合

芭蕉翁甲子紀行 真跡
一冊

山東遊覽誌 小本 二冊

此書八江の遊覽全の行末跡と微細小
の後乃小名社等の編起の事叙句と附

山東遊覽圖會 北尾紅筆畫
近刻

右の書と云く之と東の官と文物を
追加海境の深淵家傳の体と云

向嶋 画景硯の水 淺草庵大経
狂詠を加を刻

大川橋より上本母寺まゝの陸の系
とありはまふ思一遠境の程若く

日ぐじ八景圖繪 北尾紅筆畫
三の指一枚

蜀山人先生の狂詩亦一帯と深ゆ
墨地乃外遠を以て風安と見ると

前句 新堀判者川柳考
以書初編を當時まで六十七編及ぶ

誹風柳樽 小本 都鄙
一冊

流行する本年久
たつて評箋と云く之を昇雅俗と

高點 新句年集之出版

本小の及ぶ其れり後或事隠と

